

【塩屋・明神川地区】

地域農業の将来（地域計画の策定）に 関するアンケート調査の結果について

調査概要

【塩屋・明神川地区】

調査の目的

農業者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加が深刻化しており、今後の農業の展望を描くのが困難となりつつあります。

このような中で、農業者や所有者が地域の現状と将来の地域課題を共有することや、今後の農地利用を担う経営体への農地集約化に関する将来方針決定のための意向把握することを目的に実施いたしました。

調査期間

令和5年4月10日～令和5年4月28日

調査方法

郵送及びＪＡ紀州にて配布・回収

調査対象者

御坊市で営農を行う耕作者

御坊市に農地を所有する土地所有者

回収状況

対象者数 203名

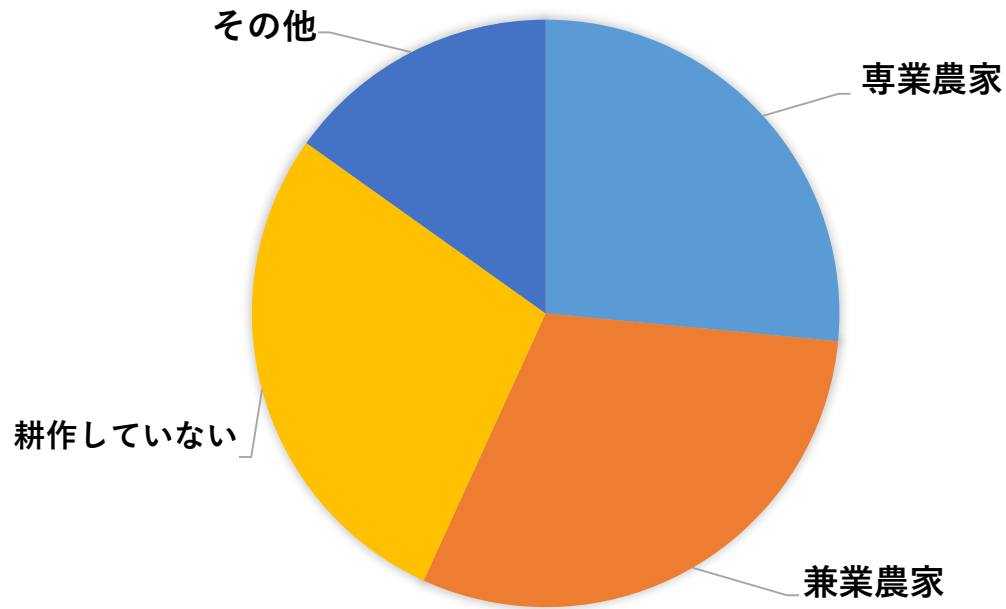
回答者数 132名

回答率 65.02%

◎注意事項

① 割合は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が100パーセントにならないことがあります。

経営の種類

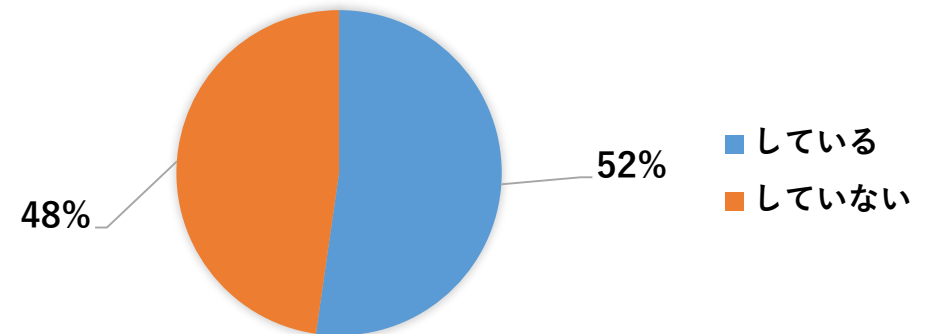


回答者の約52%が農業経営を行っており、専業農家が約27%を占める。

【塩屋・明神川地区】

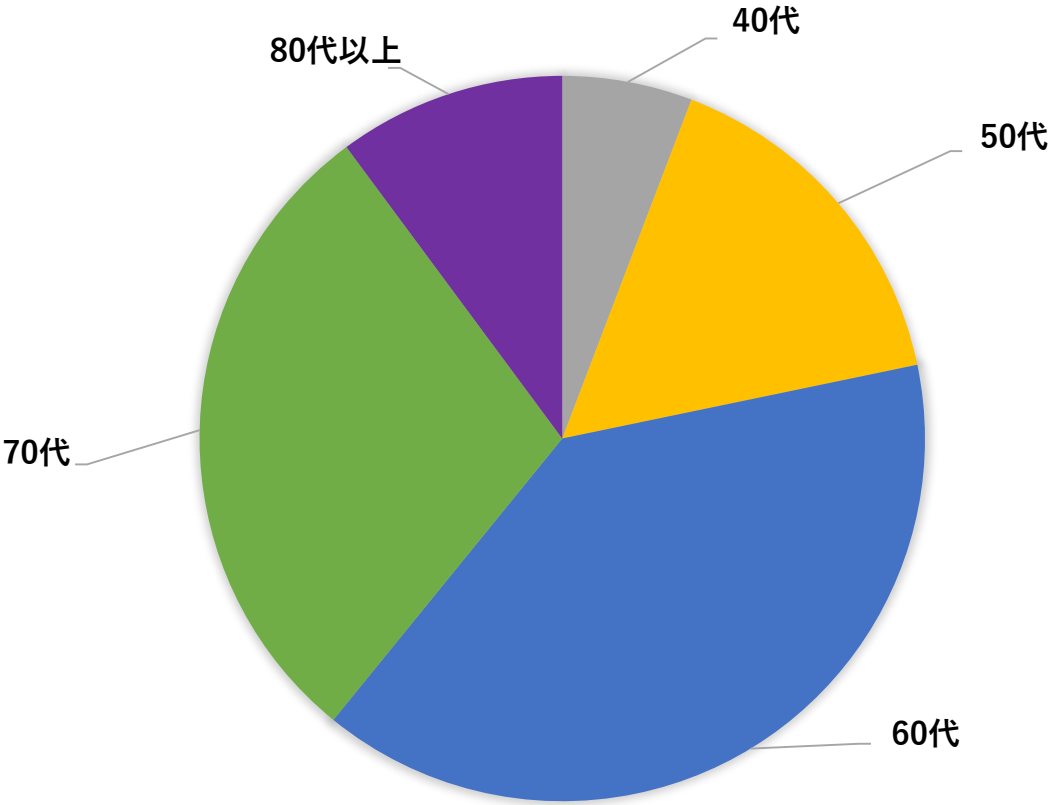
項目	回答数	割合
専業農家	35	26.52%
兼業農家	40	30.30%
法人	0	0.00%
耕作していない	37	28.03%
その他	20	15.15%
合計	132	

回答者の農業経営の割合



営農している方の年齢割合

【塩屋・明神川地区】



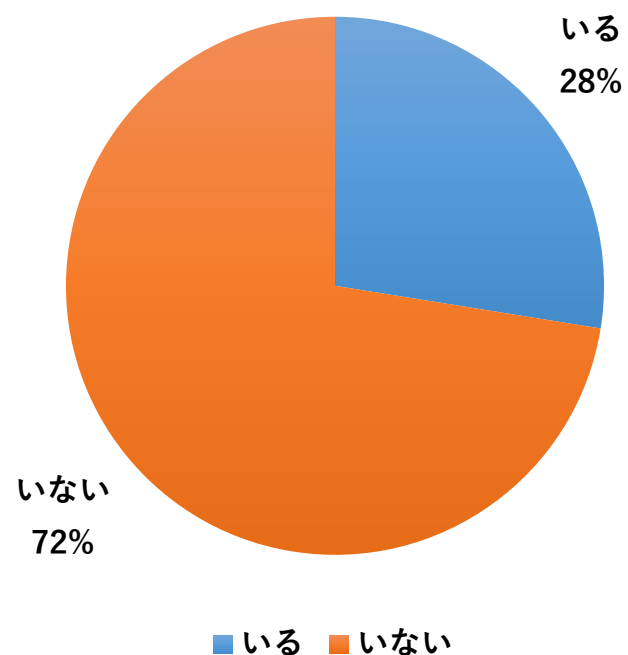
項目	回答数	割合
30代未満	0	0.00%
30代	0	0.00%
40代	4	5.80%
50代	11	15.94%
60代	27	39.13%
70代	20	28.99%
80代以上	7	10.14%
法人	0	0.00%
合計	69	

主に本人が耕作している場合の年齢層は、60、70歳代が全体の約68%を占める。後継者に継承しない場合、10年後には70歳代以上に移行していくこととなる。

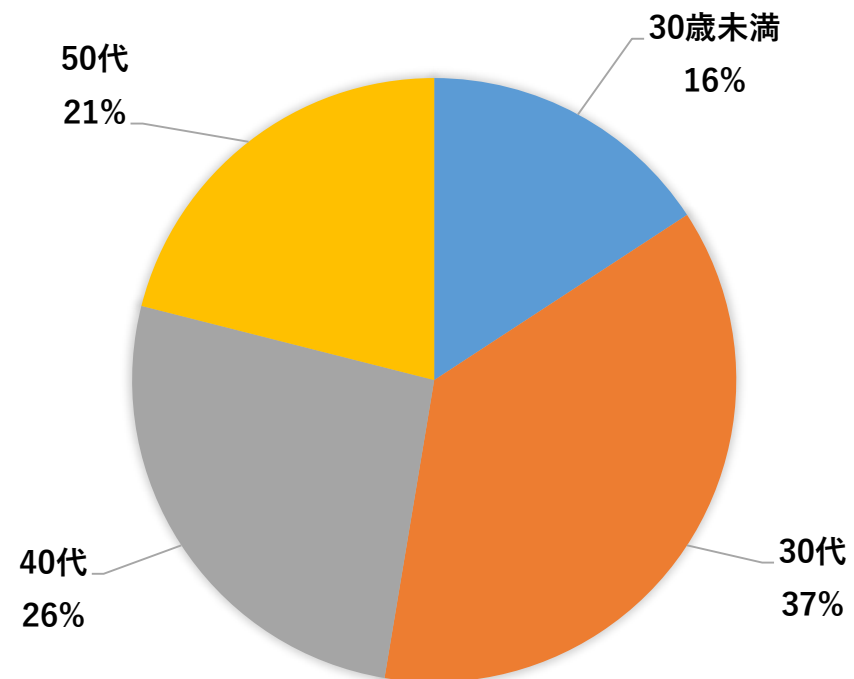
後継者について

【塩屋・明神川地区】

農業後継者がいるものの割合



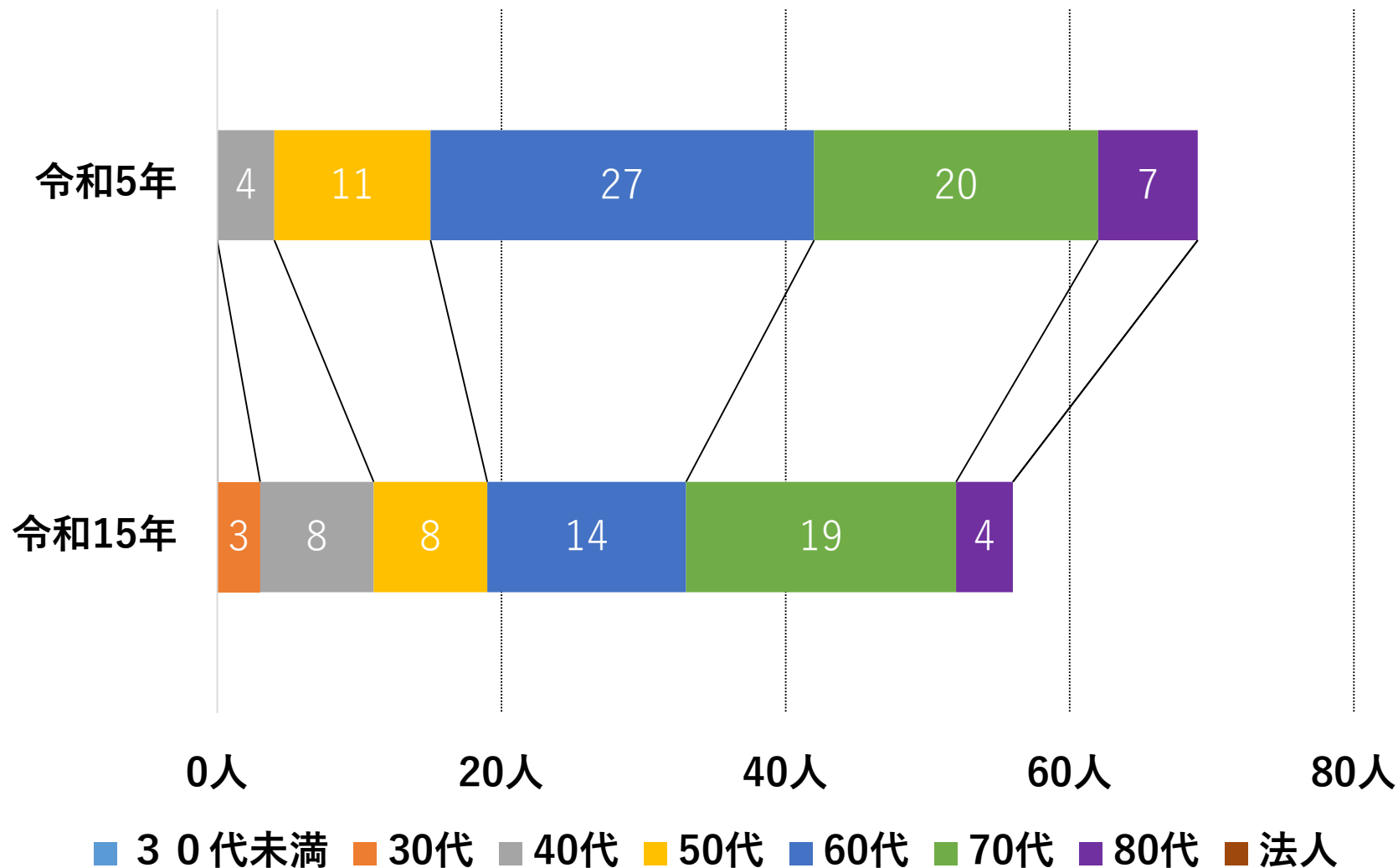
後継者の年齢



農業後継者がいるものの割合は約28%にすぎず、今後担い手不足は加速すると思われる。

現在と10年後の耕作者の状況

【塩屋・明神川地区】



現在耕作者の年齢分布は60歳代中心で10年後には70歳代が中心となる。また離農者が増えることにより農業経営人数は減少する。

地域農業の在り方に関するご意見（抜粋）

【塩屋・明神川地区】

- 有志3人一組にすれば5、6人分の仕事ができる。農機具は一式で済む。年間の売り上げ目標を立てる。作物の品種の選定し最も良い売先を見つける。作物の売価は自らする（競争力、情報力が身につく）。何かに利益出せるか。コスト・差別化・集中。
- 農地を機械化農業、大規模化できるよう構造改善したうえで農業会社をつくって経営していく必要があるのではないか。
- 農業者がどんどん少なくなり、耕作放棄地が増えていくことが想像に難くなく自身の営農にも影響が出てくるのではと不安を感じます。等